

米づくり情報（NO. 4）

令和5年7月7日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	4	22.4	23.8	26.8	29.7	19.0	19.1	67.9	0.0	19.6	42.0
	5	23.1	23.0	27.1	27.3	20.0	20.2	85.9	78.0	16.0	9.4
	6	24.0	26.7	27.7	29.0	21.1	25.0	95.6	157.5	14.1	1.8
7月	1	24.8	24.4	28.4	28.1	22.0	22.0	97.6	67.5	15.6	6.6
	2	25.5	-	29.2	-	22.6	-	84.3	-	19.2	-
	3	26.1	-	30.0	-	23.1	-	59.0	-	23.5	-

【6月4半旬～7月1半旬の気象概況】

- ・平均気温は平年と比べ並～2.7℃高く、日照時間は6月4半旬以降で少なく推移した。
- また、降水量は6月6半旬においてかなり多かった。

2 生育状況（7月5日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	65.8	371	8.9	46.0	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より高い ・莖数は、平年やや少ない ・主稈出葉数は平年よりやや少ない ・葉色は平年よりやや濃い
	平年値	54.8	377	9.5	43.6	
	平年比	120	98	-0.6	+2.4	
ヒノヒカリ 6/19 移植 松浦町桃川	本年値	31.5	99	5.9	35.3	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より高い ・莖数は、平年よりやや少ない ・主稈出葉数は、平年よりやや多い ・葉色は平年より薄い
	平年値	26.7	102	5.6	40.0	
	平年比	118	97	+0.3	-4.7	
たんぼの夢 6/17 移植 松浦町桃川	本年値	27.2	74	6.6	38.1	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年より高い ・莖数は、平年よりかなり少ない ・主稈出葉数は、平年より多い ・葉色は、平年よりやや薄い
	平年値	25.3	158.3	6.1	41.4	
	平年比	107	47	+0.5	-3.3	

（耕種概要）

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（7月3日）

項目 品種	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉齢 (L)	概要
夢しずく 6/19 移植	本年値	32.7	94	5.7	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年よりやや高い ・莖数は、平年並み ・葉齢は、平年並み
	平年値	30.7	94	5.7	
	平年比	107	100	(±0)	
ヒノヒカリ 6/19 移植	本年値	26.1	102	5.2	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年よりやや高い ・莖数は、平年よりかなり少ない ・葉齢は平年よりやや遅れている
	平年値	24.4	137	5.9	
	平年比	107	74	(-0.7)	

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・すでに幼穂形成期を迎えている。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、下表を参照し穂肥を施用する。穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない。
- ・いもち病常発地帯では、発生状況をこまめに観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

《夢しずく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期 の草丈(cm)	葉色		施用時期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群落	SPAD-502	出穂前日数	幼穂長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう。

2) 普通期水稻「夢しすく」

【6月上旬移植】

- 有効茎（1株当たり20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ガス対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- 中干しは約1週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、強い中干しとなった圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、根をならしてから間断灌水に移行する。

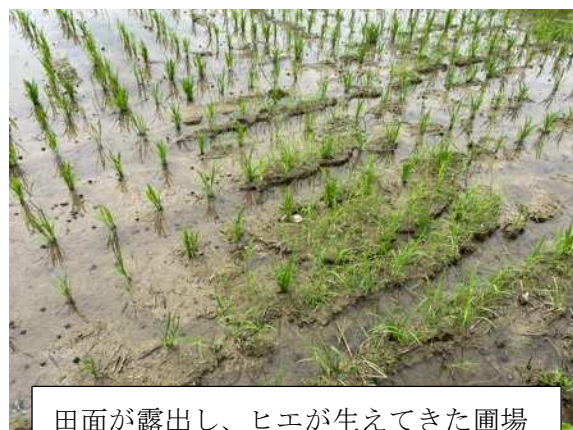


参考 夢しすく茎数
左18本 右17本 (間もなく中干へ移行)
左29本 右23本 (ただちに中干へ移行)

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 分けつ期を迎えている。除草剤処理後1週間経過した圃場は浅水管理に移行し、茎数確保に努める。

※除草剤は、散布後3日経過すれば有効成分が土壌に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても1週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、均平が取れず田面が露出した部分がある場合は、1週間後の雑草発生状態を確認し、早めに中後期剤等での防除を行う。



田面が露出し、ヒエが生えてきた圃場

4) 共通

○病害虫防除

（いもち病）

- 7月6日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では6月8日、6月11日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床になるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

(病害虫)

- 普通期水稻の一部圃場ではスクミリンゴガイの発生が多い箇所が散見される。今後の雨などの状況次第では、大きな被害が生じる恐れがあるため、総合的な防除対策の徹底が必要。
- 6/30、7/1～4に嬉野市においてトビイロウンカが、6/21～24頃にかけて、セジロウンカとコブノメイガの誘殺を確認しているため、今後の発生状況を注視する。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

